

10月に入りました。そろそろ秋も深まってきますね。秋といえば、「食欲の秋」「スポーツの秋」など色々ありますが、白ゆり幼稚園では今まさに「芸術の秋」真っ盛りです。

年長児が紙粘土で表現しているのは「将来の夢」☆ なりたい自分を思い浮かべながら、形や色、細部の部分にもこだわって、一人ひとりの夢が少しずつ人形になっていきます。こども達の頭の中には、もう未来の自分の姿がしっかり見えているのかもしれませんがね（笑）



年中児達が作っているのは、紙粘土で大好きなパパやママの顔…「髪の毛はどうだったかな?」「やっぱり笑った顔がいいよね♥」と、大切な人を思い浮かべながら作る表情には、こども達の優しい気持ちがいっぱい詰まっていますよ（笑）

そして、1F年少児クラスの廊下を見上げると、天井からは可愛らしい「どんぐり達」がユラユラ、ユラユラ…秋風に揺られているように思わず笑顔になります（笑）

自分で考え、想像して、手を動かし…「こんなふうにしたい!」を形にする! その一つひとつがこども達ならではの立派な芸術です。



「年長児、ドッチボール大会へ!」

年長児達がまた一つ新たな挑戦を始めます!

「ドッチボール大会」に向けて、練習がスタートしました。

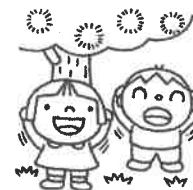
運動会や日々の活動を通して「仲間と力を合わせる楽しさ」をたくさん経験してきた年長児達…今度はドッチボールを通して、チームで戦う面白さや難しさをさらに味わってもらおうと思います。ドッチボールは、投げるのが上手でもダメ、捕るのが上手でもダメ、逃げるのが上手でもダメ…「投げる・捕る・逃げる」の三拍子が揃ってこそ、チームの力が発揮されます。

もちろん一人で全てを上手にできる必要はありません。投げるのが得意な子、捕るのが得意な子、逃げるのが得意な子…それぞれ得意なこと、持ち味は違います。だからこそ面白いのがチーム競技です。一人ひとりの個性を活かしながら、仲間の力を信じ、声を掛け合い助け合う。「自分が頑張る」から「みんなで頑張る」へ… 勝つ喜びも負ける悔しさも、仲間と一緒に味わいながら、年長児達にはもう一回り大きく成長してほしいと思います。

北海道の秋は本当に駆け足です。「気持ちの良い季節になったなあ〜」と思っているうちに、あっという間に「冬將軍」の足音が聞こえてきます。

寒さが厳しくなってくると、ゆっくり園外で過ごすことが難しくなります。

ということで、冬將軍がやってくる前に、年少児と年中児達は「小さい秋」を見つけない、秋の自然をたっぷり感じられる園外保育に出かけようと思っています（笑）



色づいた木々を眺めたり、カサカサと音を立てる落ち葉の上を歩いたり、どんぐりや木の実を探したり…

こども達にとっては、小さなどんぐりも一枚の落ち葉も立派な「宝物☆」です。

雪に覆われる前のほんの短い季節… 五感をいっぱい使って、「今しか出会えない秋」を楽しみたいと思います（笑）



「聞く力は「学ぶ力」の土台」

小学校に入ると、子ども達は先生の話聞きながら学ぶ時間がぐっと増えていきます。小学校、中学校、高校と続く学校生活… その学びを支える土台の一つが「聞く力」です。

「聞く力」とは、先生の前で黙って座っていただけることだけではありません。相手に気持ちを向け、「何を伝えようとしているのかな?」と言葉を受け取り、考え、理解し、自分の行動に繋げていく力です。

お子さんが白ゆりに入園した頃を思い出してみてください。

教師が話していても気になるものを見つければそちらへ一直線。「お片付けですよ」と言われても、まだまだ遊びたい。「順番だよ」と言われても「自分が先!」。決して「聞く力がなかった」ものではありません。まだ、その力が育っていなかったのです。

それが毎日の園生活の中で、「おはようございます」「ありがとう」「いただきます」「ごちそうさま」と挨拶を交わす。脱いだ靴を揃え、自分の持ち物を整理して、使った物を片付け、順番を待ち、先生や友達の話に耳を傾ける… そんな小さな経験を何度も何度も積み重ねてきました。気が付けばそれらのことが「当たり前」になっています。

この「当たり前」が実は大切なのです。言葉を聞き、その意味を理解し、自分で考えて行動する。その繰り返しの中で、「聞く力」とともに、自分をコントロールする力や、人と一緒に生活する力も育っていきます。

幼児教育には、昨日できなかったことが今日突然できるようになる魔法はありません。あるのは、毎日の小さな積み重ねです。「ちゃんと聞きなさい!」と何度も言うこと以上に、聞く経験を毎日の生活の中に積み重ねていくことです。

白ゆりで過ごす何気ない一日一日が、やがて小学校、その先へと続く「学ぶ力」の土台になっていくのです。